

くろぎん
旧黒須銀行特別公開

「くろぎん茶屋」「くろぎん茶屋で聴く入間の民謡・お茶のうた」



めの人や地域の想いが重なる(クロスする)ことを目指す「クロスプロジェクト」の一環として実施しました。

建物の公開では、ボランティアとして参加した、元・当館学芸員による詳しい解説を実施しました。これにより文化財としての旧黒須銀行への理解を深め、来場者の満足度を高めることができましたと思います。やはり解説があると、見学するときに「ここがポイント!」というような場所が分かりやすいようです。

「くろぎん茶屋で聴く入間の民謡・お茶のうた」は、2階(元会議室)の雰囲気を活かした、有形・無形の文化財がクロスするイベントとして企画したものです。講師は亀ヶ谷行雄さん(民謡研究家)。聞き手は、企画から協力していただいた北野留美さん(タミノーク・プロジェクト)。亀ヶ谷さんのコレクションによる貴重な音源を紹介した他、お二人にはその場で歌も披露していただく場面も。担当学芸員からは、明治時代に狭山茶が外国商館を挟まず直輸出できるように設立した「狭山会社」と黒須銀行の関係や、民謡「根通り小唄」の歌詞がこの場所「黒須」から始まることなどの解説を行いました。



た。地元の高倉郷土芸能保存会には、ホイロでの手揉みの実演を模したデモンストレーションとともに「狭山茶造り歌」を歌唱していただきました。会場は、解説を聞く方、民謡を聞きに来られた方、建物の上から何か聞こえるぞ!と2階に上がってこられた方などで常時満員。博物館OBの職員や、学芸員を志す大学生のボランティアなどの協力で事故やけがもなく実施することが出来ました。

地元の団体に協力していただくことで、より一層「クロスプロジェクト」としての意義も高めることができましたと思います。録音の演奏に加え実演があったことはイベント参加者にも好評で、また黒須銀行創業者の子孫から寄贈された蓄音機の展示も、旧黒須銀行建物の竣工とほぼ同時代というたいへん貴重なものであり、多くの参加者が写真を撮っていました。とにかく色々なものがクロスする「くろぎん茶屋」の一日でした。

9月9日(土)には、復元修理工事着工前最後の特別公開として「大くろぎんまつり」を開催予定です。お囃子、盆踊り、科学実験、昔あそび、飲食出店など多彩なイベントで盛り上げていきます。ぜひ遊びに来てみませんか?



令和5年6月24日(土)に、明治時代に建てられた土蔵造りの銀行建築、入間市指定文化財「旧黒須銀行」の特別公開と、飲食や買い物を楽しみながらこの建物に親しんでいたかこうという趣旨の「くろぎん茶屋」と、旧黒須銀行の建物の趣を活かした催しとして「くろぎん茶屋で聴く入間の民謡・お茶のうた」を同時開催しました。この催しは、SMF連携館の事業として、そして旧黒須銀行を今後活用していくた

